

令和元年度

全国スポーツ指導者連絡会議 北海道・東北ブロック会議が開催されました



期 日：令和元年 6月25日(火)

場 所：ひとめぼれスタジアム宮城(宮城県利府町)

参加者：全国スポーツ指導者連絡会議幹事・代表委員

北海道・東北各県スポーツ指導者協議会関係役員、宮城県関係者等26名出席

内 容

#### 1 開会行事

- (1)開 会 宮城県スポーツ指導者協議会 委 員 小 野 寛 氏
- (2)開会あいさつ 宮城県スポーツ指導者協議会 代 表 佐 藤 忠 文 氏
- (3)歓迎のことは 公益財団法人宮城県スポーツ協会 事務局次長 大 沼 博 之 氏
- (4)日 程 説 明

#### 2 施設見学 グランディ21・宮城スタジアム

「オリンピック開催施設における準備状況と課題」

準備状況等

- ※ 来年1月に芝の張り替えを予定しており経費として1億9千万円を見込んでいる。
- ※ 現在ある大型ビジョン1台の改修と反対側にプラス1台設置予定。
- ※ 一部和式のトイレから洋式のトイレへ改修。
- ※ ドーピング検査室の設置。
- ※ オリンピック開催4日前(7月22日から)に廻りにフェンスの設置。
- ※ 現在駐車場は5,600台分あるが、オリンピック時の自家用車は駐車禁止で、シャトルバスによる輸送となる。
- ※ オリンピックの開催は6日間で、サッカー男女10試合ある。

課題として

- ※ 施設使用料について  
施設管理者に対しての補償等の問題。
- ※ ホテルから30分以内で練習会場が必要ということだが、最大8チームがあり現在6ヶ所しかない。
- ※ 照明について  
現在、1,500から1,600ルクスだが、放送局からハイビジョン放送のため2,000ルクス

欲しいと言われている。

現在の全電球を取り換えて、LED化を予定している。

### 3 自己紹介

### 4 報 告

全国スポーツ指導者連絡会議の状況等について

全国スポーツ指導者連絡会議 東北ブロック代表幹事 宮城 勝文 氏

全体会議

- 1) 指導者育成専門委員会委員長挨拶
- 2) 公認スポーツ指導者制度の改定について(日スポ協より周知)
- 3) 「資格更新のための義務研修」の名称変更について(日スポ協より周知)
- 4) 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインについて  
(塩川スポーツ庁政策課学校体育室長)

都道府県ブロック別分科会

- 1) 令和元・2年度東北ブロック代表幹事について  
宮城県が担当
- 2) 令和元年度北海道・東北ブロック会議について  
宮城県が当番(令和2年度は福島県)

その他

- 1) 各都道府県指導者協議会の状況  
今回の出席者名簿では、鳥取県、島根県、広島県から指導者協議会からの参加は無く、当該県体育協会担当者が参加。  
鳥取県指導者協議会は2017年に解散。他2県の詳細は不明であるが、解散が懸念される。  
(以上は当日配布資料より抜粋。なお、全体会議及び分科会の詳細については、山形県スポーツ指導者協議会ホームページの「事業報告」に掲載してあります。)

東北ブロック代表幹事としての感想

- 1) 指導者はスポーツ界においてどういう立場にあるのか。  
自分のことがわからず解散した鳥取や組織が無い広島等。
- 2) 何を求めているというものは何もない。  
担当者の方の集まるものは何もない。  
したいことはする。出来なければしない。(自分の感想として)
- 3) 自分達の出来ることをすれば良いのか。
- 4) 自分達で何をしたいのかが大事である。
- 5) 2年間ブロックの代表として参りたい。
- 6) これからは、メールで共有していきたいので、各道県の連絡先を教えて欲しい。  
山形県) 連絡先については、資料の9ページに道県連絡先一覧がありますが。  
幹 事) 連絡先一覧表にします。

### 5 協議及び意見交換

- 1) 各道県における活動と課題について  
岩手県) 年間3万円を払って、県スポーツ協会に仕事をお願いしている。

役員をどう切り替えていくかが課題である。(世代交代)

岩手県・盛岡市・県レクリエーション協会・県障がい者スポーツ協会・県スポーツ協会・県スポーツ推進協議会・大学・企業等で「岩手県スポーツネットワーク」を立ち上げた。

北海道)「女性アスリート健康サポート北海道」の開設について

青森県) 昨年までブロック代表幹事をしており、メールにて日本スポーツ協会にこの会議へ派遣要請をしたが、会議の内容、日程、派遣職員の問題等があり、ご教示くださいとメールにて返答された。これから実現するのか難しいと思う。

秋田県) 組織をどう維持していくのか。

我々は何をするのか。

山形県) 予算は会費を徴収せず日本スポーツ協会助成金が主で運営が厳しいので、昭和55年から平成13年まであった日本スポーツ協会からの助成金を一人2,000円に戻して欲しい。

福島県) 福島の本田氏が代表幹事から、各県持ち回りにして今回で一巡になる。

事務局23年目で、事務所を外部に出した張本人である。

公認指導者の資格が無いと国体の監督やコーチになれないということで、若い人が取得している。

会費について

北海道) 4年に1回 5,000円 (520人)

秋田県) 1,000円 (30年度実績 151人)

会費ゼロが全国でも増えている。会員から会費を集めることが難しい。

岩手県) 1,000円 (30年度実績 928人)

福島県) 1,000円 (1,000人)

会費納入について、県スポーツ協会から情報を得て会報と郵便局払込取扱票を送付。

青森県) 徴収せず

宮城県) 徴収せず(30年度から)

これまでの会費納入者は2,000人から700人となっている。

山形県) 徴収せず(26年度から) ただし、30年度に役員及び一部指導者から入金有。

会報について

北海道) 年1回 会員に発送

青森県) 年1回 (昨年度よりデータにてホームページに掲載)

秋田県) 年1回 協議会会員

岩手県) 年2回 会員、県体協加盟団体

宮城県) 年1回 協議会会員 今回から廃止予定

山形県) 平成27年度より休止し、現在はホームページに掲載。

福島県) 年1回 会費負担者

義務研修会について

宮城県) 義務研修会参加者に補助として出しておったが、受益者負担という形にしたことと、これまで会場設営が一番大変だったが、200人入れるホテルの会議室を借りたため不公平に関する悩みが無くなった。

福島県) 研修会参加費 会費納入者 1,000円 未納者 2,000円

2) 公認スポーツ指導者制度改定への各道県の対応について

北海道) 特に対応はしていない。

青森県) 各説明会、更新研修等にて案内等している。

宮城県) 更新研修等の機会を使って主な改定点について資料を配布し説明している。

山形県) 当協議会のホームページに事業報告欄の全国連絡会議に掲載している。

福島県) 昨年度の研修会で改定内容の概略を案内し、ホームページや日本スポーツ協会から原稿をいただき、会報に3ページにわたって掲載し周知している。

秋田県) 特にしていない。

岩手県) 特にしていない。

### 3) 全国スポーツ指導者連絡会議等で検討すべき課題等について

宮城県) スポーツ少年団認定育成員・認定員の位置づけについて

2020年度から4年間にスポーツ少年団にて「指導者」として登録可

2023年度までに移行手続き(移行講習会なし)

資格登録料 10,000円、初期登録料 3,000円(資格登録手続き時)

2024年度から4年毎に更新手続き、その間更新研修会の修了が必要

資格登録料 10,000円(資格登録手続き時)

2022年度から移行期の特別措置として新スポーツリーダー(仮称)への移行

2024年度からスポーツ少年団にて「指導者」として登録不可

2024年度以降も新スポーツリーダーへの移行可

以上のようにお金もかかるし、研修会も受ける必要があり、今の倍以上の人が受講することになると思うが、新スポーツリーダーの受け皿にスポーツ指導者協議会が受け入れるのか。

山形県) 義務研修会は年1回開催しているが、現在の会場は400名位入れるがこれまで300名の受講者のため100名位の枠があり、県スポーツ協会ではスポーツ少年団からも受け入れたい旨、スポーツ指導者協議会の会議で発言している。

### 4) 次期ブロック会議の開催場所について

「福島県」で開催することに決定。

## 6 その他

宮城幹事) 公益財団法人日本スポーツ協会ホームページの中に、都道府県スポーツ指導者協議会の一覧があるが、その中で各都道府県のホームページへリンク出来るのが、北海道、山形県、東京都の3都道県のみであった。皆さんの県もリンク出来るようにして欲しい。

山形県) 当協議会のホームページを立ち上げた際、当時の山形県体育協会へ文書にて日本体育協会のホームページからもリンク出来るようにして欲しいとお願いした。

福島県) ホームページを年間3万円で学校の先生にお願いし開設している。

## 7 閉会のあいさつ

## 8 閉会

会議終了後、仙台市に移動し会費制にて情報交換会を開催、成功裡に終了しました。

(記録者 太田副会長)